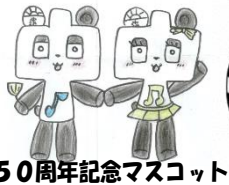


「つたえよう」「わかりあおう」「つなごろう」 学校だより



50周年記念マスコット



伸びゆく子

令和2年11月30日
横浜市立中沢小学校
12月 号

「まちとつながる学習」での貴重な学び

副校長 柴田 耕治

朝の寒さが身に染みる季節となってきましたが、皆様いかがおすごでしょうか。

創立50周年の取組を進める中で、子どもたちが中沢のまちに目を向け、このまちの日常の中で活動を続けていらっしゃる地域の方々のお姿に気付き始めています。

高学年のあるクラスでは、学区の西方にある通称「緑地」について愛護会の村崎さんからお話をいただく機会を得ました。感染症対策のため、透明な衝立のある家庭科室で互いに距離を取り、25分間という限られた時間の授業でしたが、子どもたちは、いつのまにか緑地愛護会の方の思いに引き込まれ、ときどき「ええっ?」「ああ〜」といった素直な反応をもらしながら、心も体も「前のめり」になってお話を聞いていました。

「見送りはいらぬからね。密にならないように。」そう言って村崎さんがお帰りになった後、子どもたちから次々と感想が出てきました。

「愛護会の人たちの思いを知れてよかった。緑地を残したいという思いがあったと聞いて、意外だった。絶滅危惧種があると聞き、すごく自然が多く、大切にしているんだなと思った。」

「(村崎さんは) 私たちにとってのふるさとが自慢できるくらいきれいにしたい(してほしい)と言っていた。村崎さんは、緑地愛護会に入り、自分のあこがれの場所にしたいと考え、どんどん変えていって自慢の場所にしている。」

「ニュータウン緑地に行きたい!でもこんな時期(コロナ禍)だから、(大勢で行ったら)村崎さんも気にすると思う。でも、学校みんなに『自然はすごいものだ、いいものだ』と思ってもらうためには、やっぱり自分たちが現地を調べない!」

そして、実際に現地に赴き、愛護会の方々や身近な自然に直接触れた子どもたちは、

「緑地の隣の道路をたまに通るけれど、(みんなで現地に)行く前はただの森だった。行った後に通ったら見方が変わった。」

「中沢にあんな自然豊かなところがあるとは知らなかった。」

「だけど、その自然は人が時間をかけて、苦労してできた自然だということが分かった。」

というように、身近にあって今まで意識して見えていなかったものが、当たり前にあるものではないと感じ、「分かってきたことをこのままにするのはもったいない。」という思いをもちました。そして、「自分たちだからこそできること」を話し合い、実行しようと動き出したのです。

この他にも、今、中沢小学校では様々な学年・学級で地域の方々のお力添えをいただきながら「まちとつながる学習」を展開しています。中沢のまちには、地域防災、安全見守り、地域緑化、公園美化、3世代交流、コミュニティづくりなど様々な分野で思いをもって活動されている地域の方々がいっぱいます。子どもたちの目には地域の方々のお姿が、「思いをもち、自分にできることを考え、願いの実現に向けて取組を続けていく」そのような姿として映っています。子どもたちは、これから生涯にわたり様々な状況の中で大切にしたい「生き方」にふれ、貴重な学びを得ています。

創立50周年は、たくさんの方々のお力添えによって、お陰様で実り多き一年になっています。本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。